

「いい甘え」「わるい甘え」



なぜ甘えはよくないといわれるのか。

それは「甘えさせる」と「甘やかす」が混同されているからです。

根本的に「甘えさせる」は、子どものペースを尊重すること、「甘やかす」は大人の都合ですること。さらに説明すると、

① 「甘えさせる」は「子どもの情緒的な欲求に応えること」

「甘やかす」は物質的な欲求に言われるがままに応えること

子どもの情緒的な要求には応えず、欲しがるものを何でも買っていると、将来自分の心の寂しさを物で埋めようとするようになってしまいます。

② 「甘えさせる」とは「子どもができないことを手助けすること」

「甘やかす」は「子どものできることまで干渉して手を出すこと」

子どもが甘えて「これやって」と言ってきたときに応えることで、基本的な信頼感と自己肯定感が育ち、「自分でやりたい」という自立心につながります。甘え（依存）と自立（反抗）を行ったり来たりしながら大きくなるのが、子どもの心ということです。

こんにち、児童虐待の背景として「親の孤立」があるといわれています。本当の自立とは、自分でできることは自分でやる、でも人間だからできないときもある、そんな時は適切に人の力を借りることができることだと思います。しかし甘えを許されずに育った人は、人に迷惑をかけてはいけない、と思ひ込み、誰にも助けを求められず、その結果、社会的にも心理的にも孤立してしまうのです。子どもの甘えに全て応えるのは大変です。

ですが、できる限りは心掛けたいものですね。

<参考> 0～3歳のこれで安心子育てハッピーアドバイス

子育てカウンセラー・心療内科医：明橋大二

